

平成27年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－1号)

農林総合研究センター
平成27年5月18日調査

気象経過

1. 4月上旬は、平均気温が金沢、輪島ともに平年並（平年比：金沢 -0.2°C 、輪島 $+0.2^{\circ}\text{C}$ ）、日照時間は金沢、輪島ともにかなり少なく（平年比：金沢51%、輪島56%）なった。中旬は、平均気温が金沢、輪島ともに平年並（平年差：金沢 $+0.4^{\circ}\text{C}$ 、輪島 $+0.6^{\circ}\text{C}$ ）となった。日照時間は金沢が少なく、輪島はかなり少なく（平年比：金沢61%、輪島60%）なった。下旬は、平均気温が金沢、輪島ともにかなり高く（平年差：金沢 $+2.27^{\circ}\text{C}$ 、輪島 $+1.9^{\circ}\text{C}$ ）、日照時間は金沢、輪島でともにかなり多く（平年比：金沢159%、輪島167%）なった。
2. 5月上旬は、平均気温が金沢でかなり高く、輪島では高く（平年差：金沢 $+2.0^{\circ}\text{C}$ 、輪島 $+1.2^{\circ}\text{C}$ ）なった。日照時間は金沢で多く、輪島ではかなり多く（平年比：金沢127%、輪島132%）、降水量は金沢、輪島ともに少なく（同：金沢35%、輪島32%）なった。第3半旬は平均気温が金沢、輪島ともにかなり高く（平年差：金沢 $+3.8^{\circ}\text{C}$ 、輪島 $+3.7^{\circ}\text{C}$ ）、日照時間は金沢でかなり多く、輪島で多く（平年比：金沢131%、輪島121%）なった。降水量は金沢で少なく、輪島で平年並（平年比：金沢76%、輪島106%）となった。
3. 5月18日発表の週間予報では、向こう1週間の最高・最低気温は平年並か平年より高く、降水量は平年か平年より少ない見込みとなっています。

生育概況等

【育苗】

1. 播種は3月末から開始され出芽揃いは概ね良好であった。4月第2・第3半旬は低温、低日照で経過したもの、保温管理の徹底により第1鞘高長及び苗丈は平年より長くなった。
2. 乾物重は平年より重く、充実度は苗丈が長くなったことから平年並となった。
3. 病害虫では、一部で細菌性病害の発生が見られた。

【本田の生育】

1. 田植え始期は、加賀地区で4月28日頃、能登地区で4月30日、田植盛期は、加賀地区、能登地区とも5月3日となり、県全体の田植盛期は5月3日と平年に比べ1日早くなった。
2. 強風の影響等から一部で葉先枯れが散見される圃場があったものの、田植え後は概ね好天となり、活着は良好で、生育は順調である。
3. 草丈はコシヒカリで平年よりやや長く、ゆめみづほは平年よりも長くなった（コシヒカリ：加賀105%、能登108%、ゆめみづほ：加賀115%、能登117%）、葉数展開は、平年に比べやや早い（ $+0.1\sim+0.2$ 葉）。
分けつの発生は、田植えの早い圃場（4月下旬～5月初旬）で確認されている。

【病害虫の発生状況】

イネミズゾウムシによる食害が一部で散見される。

当面の対策

【本田】

1. 浅水管理により、良質分けつの確保に努める。
2. 好天時には軽い田干しを必ず行い土壤中のガスを取り除き、根の健全化を図る。特に中期除草剤散布前には必ず田干しを行ない、稲体の軟弱化を防止する。
3. 除草剤は、田植後気温の高い日が続いていることから、ノビエ等雑草の発生が早まっ

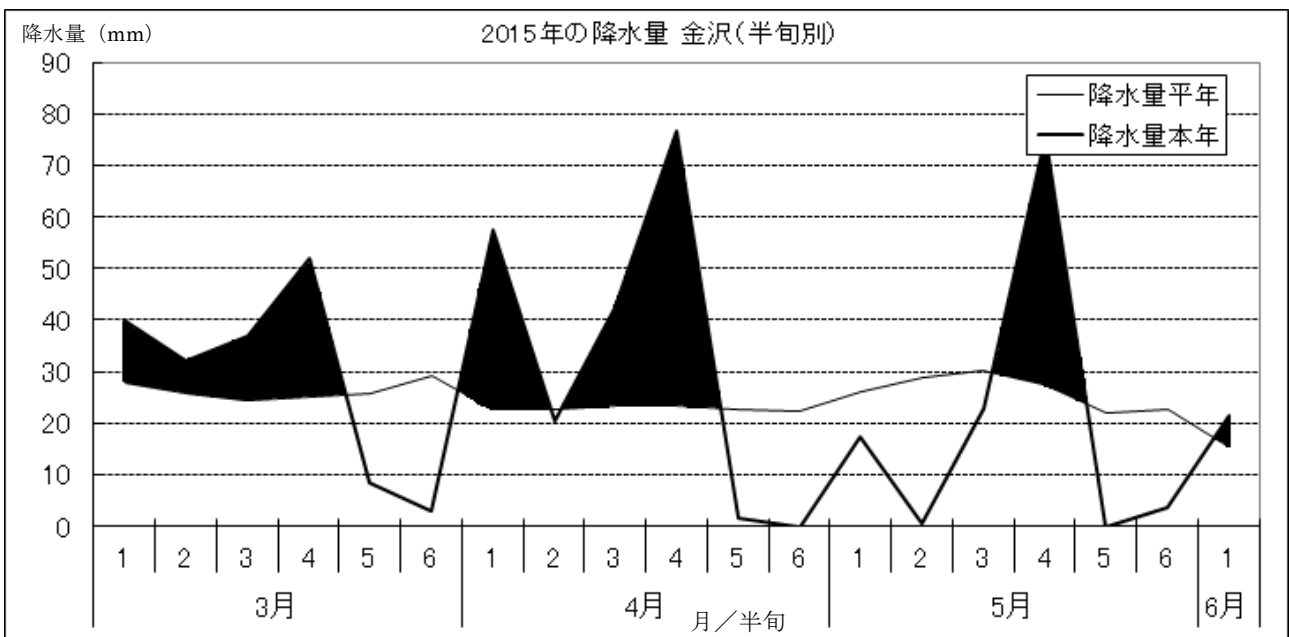
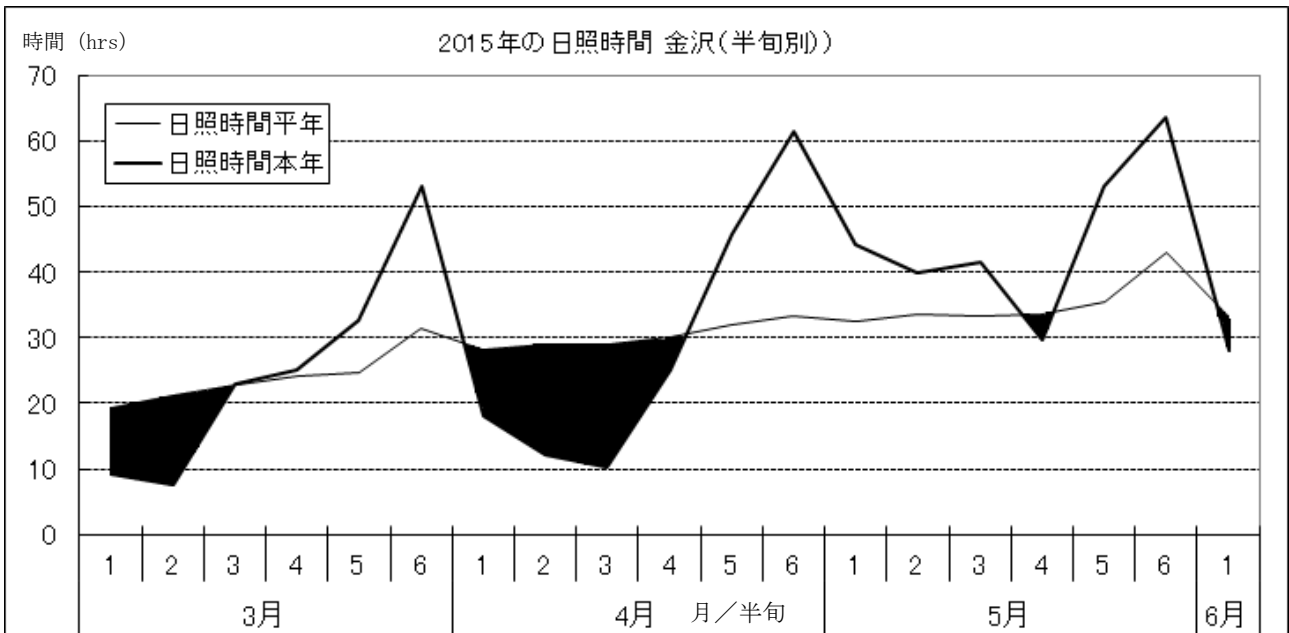
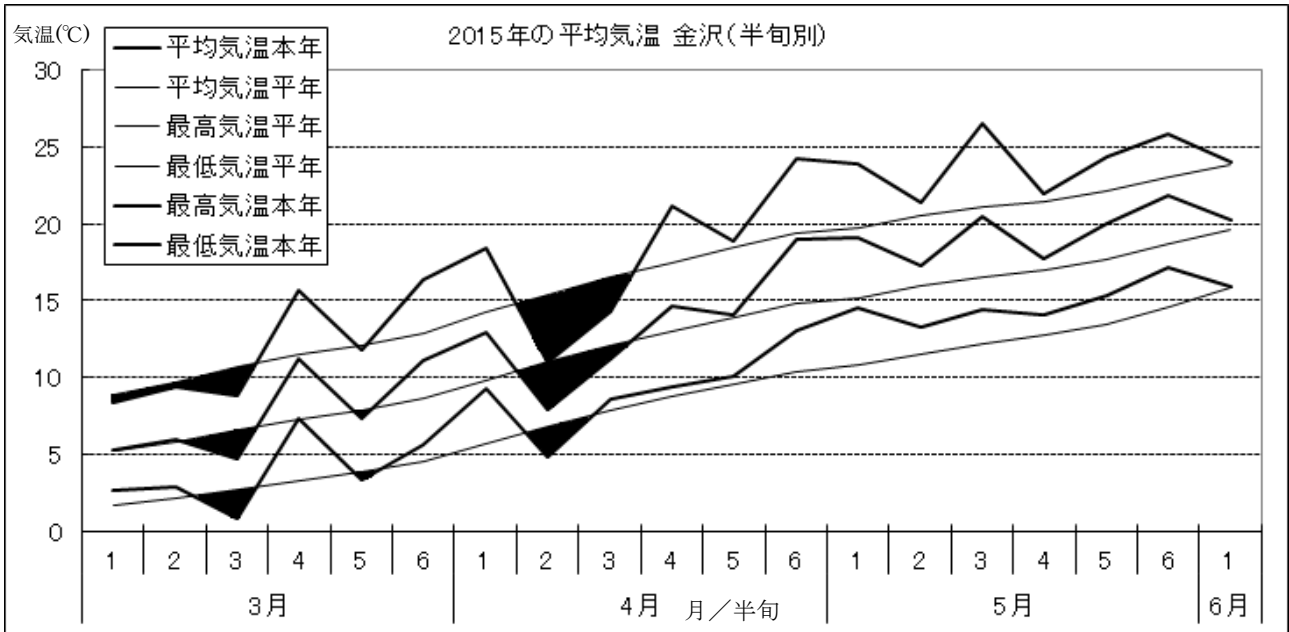
ており、稲の葉齢を十分把握したうえで、適正な時期に遅れずに散布する。除草剤散布後7日間は落水や掛け流しをしない。

4. 中干し開始は、遅くとも田植後1ヶ月で行うが、生育の早い圃場では目標茎数（目標穂数の約70%、1株当たり コシヒカリ：13～15本、ゆめみづほ：15～17本）に達したら直ちに開始する。

【病害虫】

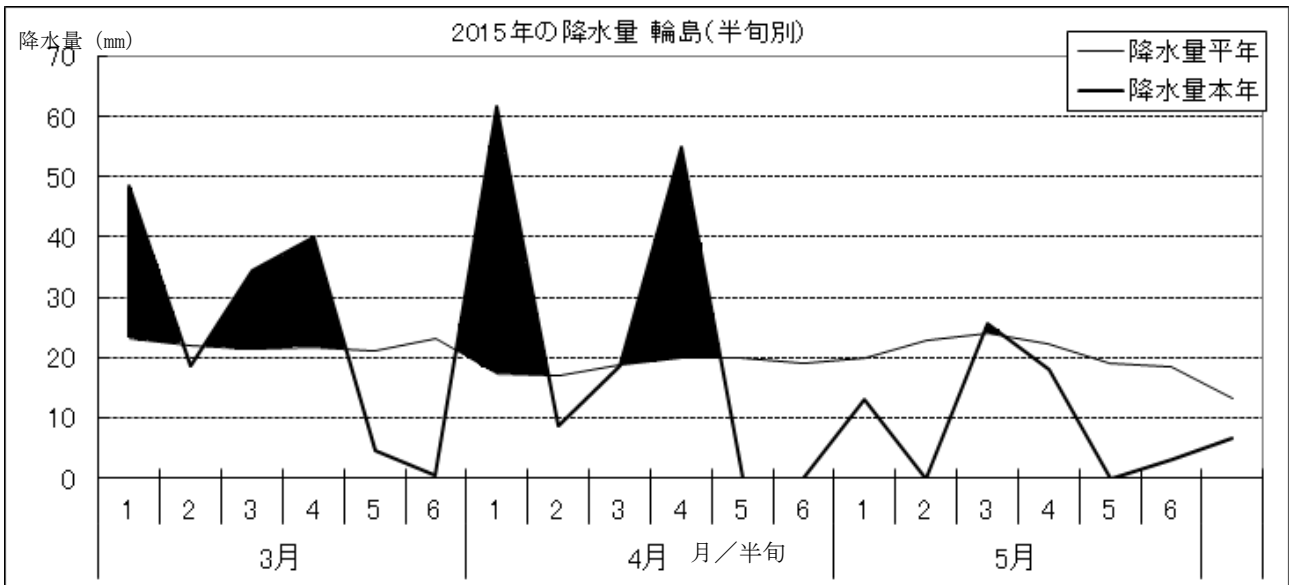
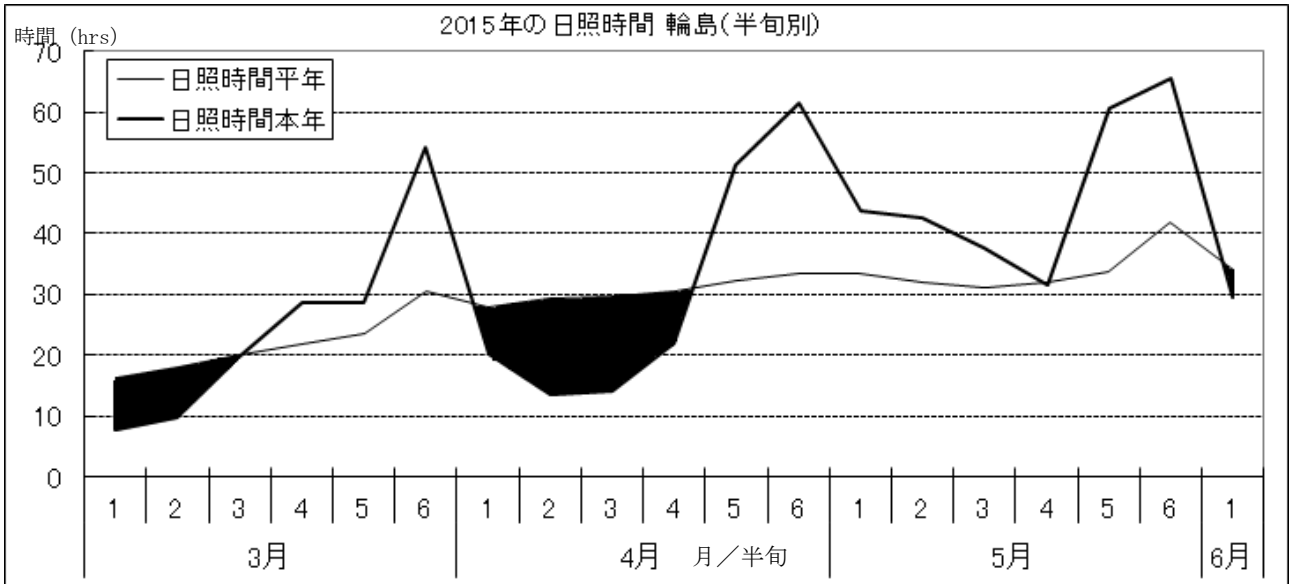
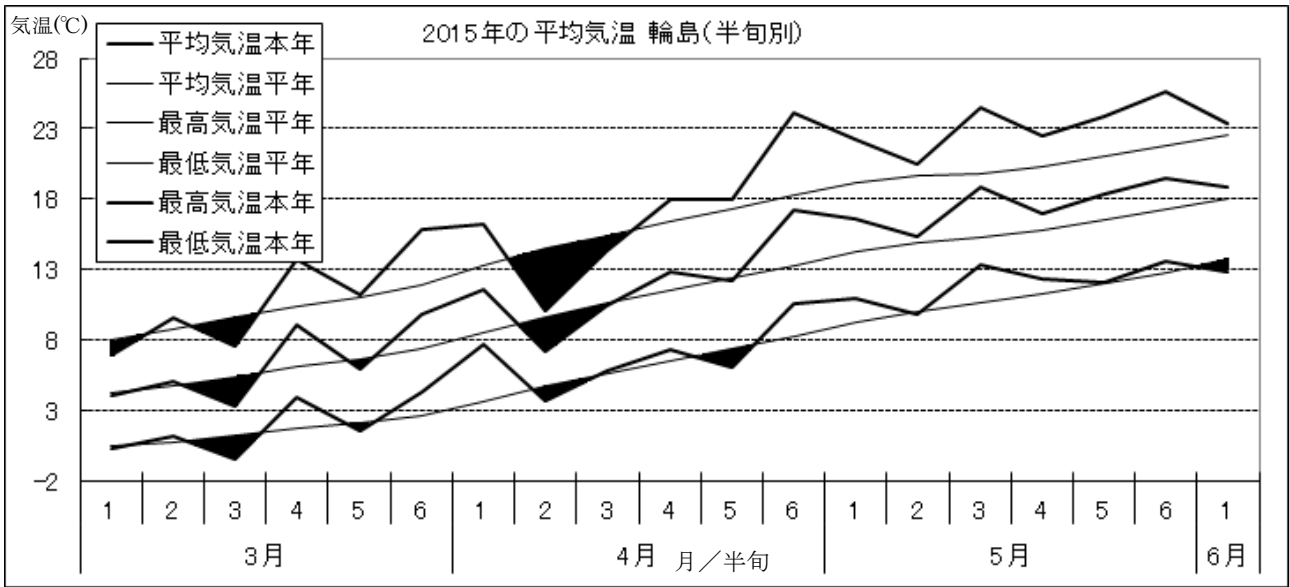
1. 補植苗の本田放置は、葉いもちの発生源となるので早急に取り除く。
2. イネミズゾウムシの防除（箱施薬）をしていない場合は、成虫が1株当たり0.3頭以上認められたら、湛水状態で粒剤を散布する。

気象経過イメージ (金沢气象台)



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

気象経過イメージ（金沢气象台）



※金沢气象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い